

田野・中川地区の

農業振興策は？

(自民クラブ)

問

丹原町田野・中川地区樹園地の荒廃園の現状と、対策として、ほ場整備事業を進めてモデル地区を作り、地域農業の振興と活性化、若者が農業に興味を持てる環境づくりを進めてはどうか。

答

近年の果樹価格の低迷と農業従事者の高齢化や新規就農者の減少、担い手不足の急激な進行などにより、放任園が約50ヘクタール、不作付地が約12ヘクタールの合計62ヘクタールと拡大している状況である。当該地区の荒廃防止と再生に向けた取り組みとしては、平成15年度に再編整備を図るため、県・旧丹原町・JA・地元農家で組織された「丹原町地域農業活性化協議会」において、さまざまな角度から検討が行われてきており、当該地域一帯を総合的な観光農業地域として整備する「たんばらフルーツランド構

想」の提言がなされている。

この提言を受けて、合併後も平成18年度から、地権者へのアンケート調査を行うとともに、同年12月から、同地区の6・5ヘクタールをモデル地区に選定し、基盤整備事業の実施に向け協議を重ねてきたが、地元関係者の合意には至らず、休止状態になっている。

今後、新たな手法を含めた土地利用計画について、JAや地元関係者や地権者と協議していきたい。



田野・中川地区に広がる樹園地

どうなるのか？

事業仕分けの市政への影響

(自民クラブ)

問

先の政権交代によって民衆を中心とした政権が誕生し、行政刷新会議により行われた事業仕分けをどう評価しているのか。

また、事業仕分けの結果が市政に及ぼす影響についてどのように考えているのか。

答

政権交代後は、革新的な変化があったものと感じており、従来のやり方が通じないことに対しての「とまどい」を感じている。11月に行われた行政刷新会議の事業仕分けについては、仕分け会場に職員15人を派遣して視察研修を行っている。論議の過程に透明性が出たと感じるものの、現在のところ新政権の政策展開が不透明であることから、今後の予算編成作業などを注意深く見守っている状況である。

事業仕分けの結果、事業の選択がなされ、国の予算に反映されることから、市政にも影響が

出るものと考えており、今後の影響について具体的には明らかでないが、情報収集に努め、適切に対応していきたい。

今後の取り組みは？

西条プロジェクト

「ISHI-ZUCHI」事業

(リベラル西条)

問

合併5周年記念イベント「ISHI-ZUCHI祭り」において、市内の小中学生やダンスチームにより、石鎚山をイメージして創作された西条踊りが披露される予定であったが、中止となっている。

当該事業のこれまでの実施状況と今後の取り組み、西条踊りの普及活動について問う。

答

西日本最高峰の石鎚山を舞台とし、総勢約400名が各チームで踊りを披露する記念イベントを開催するため、実行委員会を中心に準備を行い、7月には踊りの制作発表会を開催し、その後、講習会や自主的な練習会などを行ってきた。

しかし、新型インフルエンザの流行と悪天候により、やむな



関西京都今村組による「西条踊り「ISHI-ZUCHI」

く開催が中止となったものであるが、練習の成果を披露する場をぜひ設けてほしいとの声もあり、より多くの市民に親しんでもらえるよう検討していきたい。実行委員会では踊りのDVDやCDを作成し、市内小中学校などに配布している。

今後は、子どもたちの学習の場として、石鎚山のすばらしい自然に触れる活動を呼びかけるとともに、踊りの輪をひろげ、観光情報の発信に努め、観光客の誘致につなげていきたい。